



報道関係者 各位

平成26年5月29日

【照会先】

高知労働局 労働基準部健康安全課
課長 掛水 敏光
労働衛生専門官 伊勢田 文久
(直通電話) 088-885-6023

職場における熱中症の予防対策

～ 死を招く、熱中症を防ごう！ ～

熱中症による労働災害は、毎年、暑くなる6月から9月にかけて屋外作業の多い建設業や暑熱作業のある製造業を中心として、多発する傾向にあり、熱中症を予防するための適切な対策が求められていることから、「高知労働局第12次労働災害防止計画」においても熱中症の予防対策を重点事項としているところです。

高知県内の平成25年の職場における熱中症による休業4日以上労働災害(死亡を含む。)は、7人で前年の2人に比べ5人の増加となっています。また、業種別にみると建設業が4人(うち死亡1人)で最も多く、次いで警備業が2人で屋外作業において多発しています。(資料番号1)

このため、熱中症が懸念される時期に先立ち、高知労働局(局長 伊津野信之)では、関係団体や熱中症が多発している建設業及び建設現場に付随して行う警備業並びに製造業などの事業場等を中心に、県内15会場で開催される全国安全週間説明会(6月2日～13日)等において職場における熱中症予防対策を周知する取組を実施します。

1 熱中症に対して正しく理解し、WBGT 基準値を超える場合は、適切な予防対策を講じ、熱中症を疑わせる症状が現れた場合は早めの救急措置を取りましょう。

熱中症は死に至る危険がある病態ですが、予防法を知っていれば防ぐことができ、救急措置を知っていれば救命できます。熱中症に対しては、正しい知識と適切な予防対策を講じ、熱中症を疑わせる症状が現れた場合は早めの救急措置が大切です。熱中症はいくつかの症状が重なり合って起きることが多く、軽い症状から重い症状に短時間で進行することがあるので、その危険性を認識する必要があります。

2 職場における熱中症予防対策の効果的な取組

(1) WBGT 値(湿球黒球温度℃「暑さ指数」)を測定すること等により、職場の暑熱の状況を把握し、作業環境や作業、健康の管理を行う。

- (2) 熱への順化期間(熱に慣れ、その環境に適応する期間)を計画的に設定する。
- (3) 自覚症状の有無にかかわらず、定期的に水分、塩分を摂取する。
- (4) 熱中症の発症に影響を与えるおそれのある糖尿病などの疾患がある労働者への健康管理を行う。
- (5) あらかじめ、病院・診療所などの所在地や連絡先を把握するとともに、緊急連絡網を作成し、関係者に周知する。
- (6) 熱中症を疑う症状があれば、直ちに救急隊を要請するなどにより、医療機関へ搬送する。

3 リスク予測のための WBGT 値

WBGT 値とは

WBGT(Wet-Bulb Globe Temperature : 湿球黒球温度(単位:°C)は、乾球温度、湿球温度および黒球温度により次の式で算出され、熱中症予防のためのひとつの指標となりうるもので、「暑さ指数」といえるものです。

- ① 屋内及び屋外で太陽照射のない場合

$$\text{WBGT 値} = 0.7 \times \text{自然湿球温度} + 0.3 \times \text{黒球温度}$$

- ② 屋外で太陽照射のある場合

$$\text{WBGT 値} = 0.7 \times \text{自然湿球温度} + 0.2 \times \text{黒球温度} + 0.1 \times \text{乾球温度}$$

WBGTは、労働環境においても作業者が受ける暑熱環境を評価するために必要な気温に加え、湿度、風速、輻射(放射)熱を考慮して総合的に評価をし、基本的温熱諸要素を総合したものとなっており、熱中症の発生リスクを判定する指標として参考となります。

添付資料

- 1 職場での熱中症による労働災害の発生状況について (資料番号 1)
- 2 熱中症を防ごう！(パンフレット) (資料番号 2)

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2009/06/dl/h0616-1b.pdf>

(パンフレットをダウンロードできます。)

職場での熱中症による労働災害の発生状況について

高知労働局

第1 平成25年の職場における熱中症の発生状況

1 熱中症による労働災害の推移(平成16年～平成25年)

高知県内での熱中症による休業4日以上労働災害(死亡を含む。)は、平成16年以降では、平成22年の9人が最も多く、平成25年は7人(うち死亡1人)であった。

2 業種別発生状況(平成16年～平成25年)

過去10年間(平成16年～平成25年)の業種別の熱中症の労働災害の発生状況をみると、建設業が17人で最も多く全体の45.9%を占めている。次いで製造業が9人で全体の24.3%を占めている。

3 月・時間帯別発生状況

(1) 月別発生状況(平成16年～平成25年)

過去10年間(平成16年～平成25年)の月別発生状況をみると、8月が14人で最も多く、次いで7月が13人、9月が5人であった。7月と8月で全体の73.0%を占めている。

(2) 時間帯別発生状況(平成16年～平成25年)

過去10年間(平成16年～平成25年)の時間帯別発生状況をみると、15時台が11人で最も多く、次いで14時台が7人であった。

4 年齢別発生状況(平成16年～平成25年)

過去10年間(平成16年～平成25年)の年齢別発生状況をみると、50代が12人で最も多く、次いで30代が9人、20代と60代がそれぞれ6人であった。

5 休業日数別状況(平成16年～平成25年)

過去10年間(平成16年～平成25年)の休業日数別発生状況をみると、1週間以内が17人と最も多く、次いで1週間超2週間以内が10人であった。

第2 熱中症の死亡事例(高知県内)

発生年月日	業種	年齢	概要
H18. 7.26	林業	50歳代	作業道の調査を行い、山道を分かれて待ち合わせ場所まで移動したが現れないため、同僚が様子を見に戻ったところ倒れていた。
H25. 8.20	建設業	40歳代	午後3時30分頃、地質ボーリング作業中に倒れ、大量に汗をかき意識もなかったため、病院へ救急搬送されたが、同日死亡した。

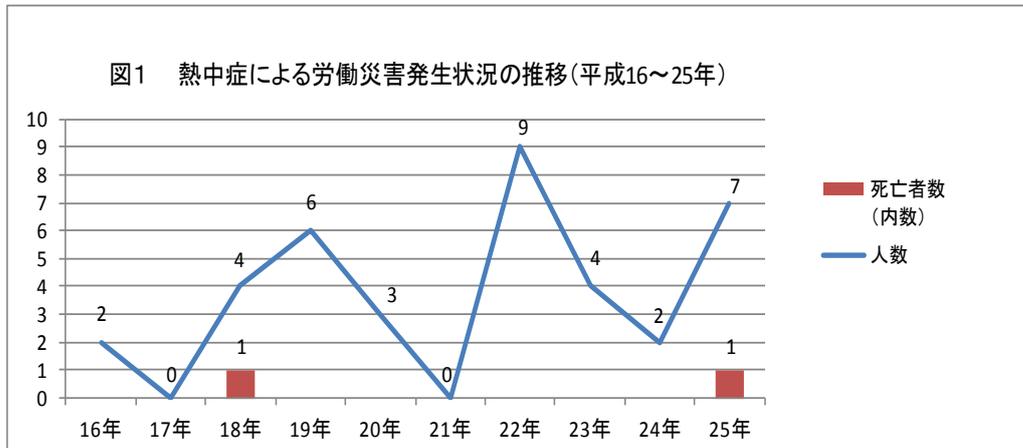
職場における熱中症の発生状況 (休業4日以上)

高知労働局

1 熱中症による労働災害発生状況の推移(平成16～平成25年)

年(平成)	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	計
人数	2	0	4	6	3	0	9	4	2	7	37
死亡者数(内数)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2

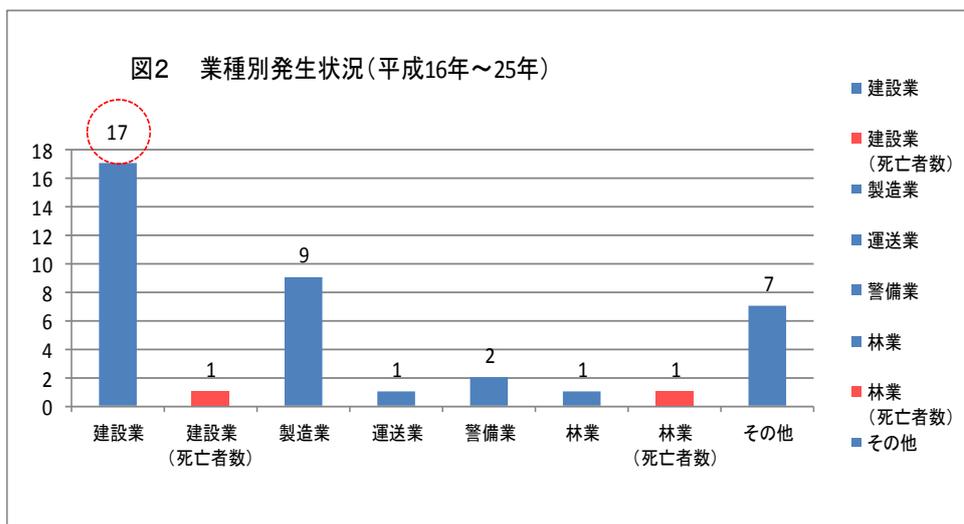
※労働者死傷病報告(休業4日以上)による。



2 業種別発生状況

業種	建設業	建設業 (死亡者数)	製造業	運送業	警備業	林業	林業 (死亡者数)	その他	計	死亡者数 (内数)
平成16年	2								2	0
平成17年									0	0
平成18年	2					1	1	1	4	1
平成19年	2		2					2	6	0
平成20年	2		1						3	0
平成21年									0	0
平成22年	4		3					2	9	0
平成23年			1	1				2	4	0
平成24年	1		1						2	0
平成25年	4	1	1		2				7	1
計(人)	17	1	9	1	2	1	1	7	37	2

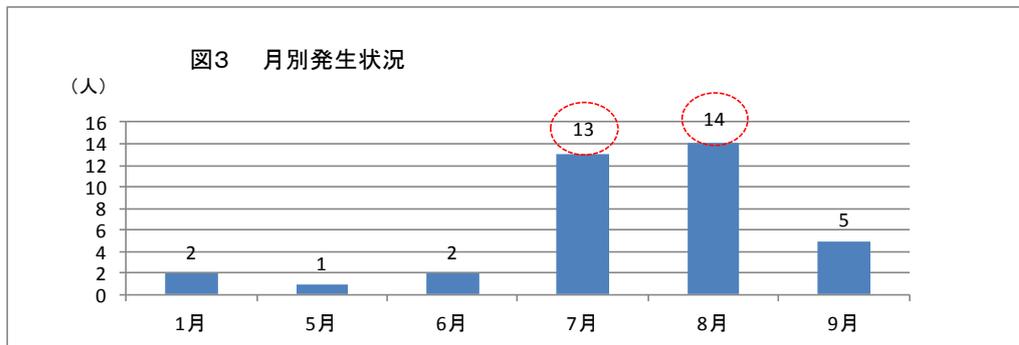
※死亡者数は、その業種の内数である。



3 月・時間帯別発生状況

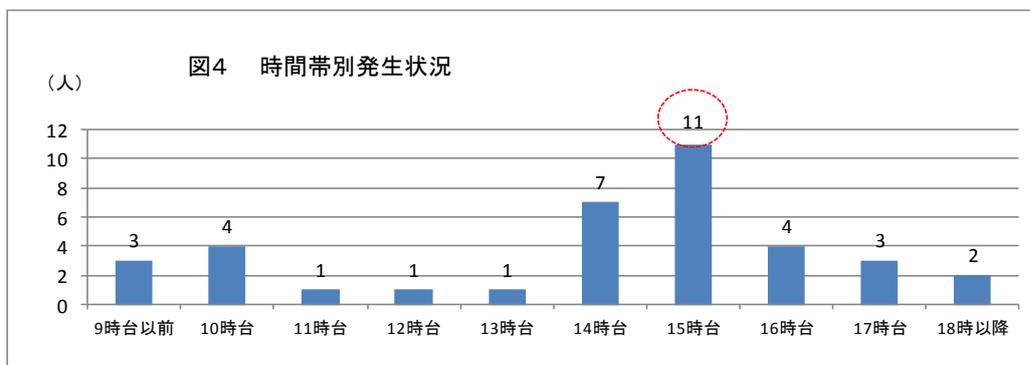
(1) 月別発生状況

月	1月	5月	6月	7月	8月	9月	計(人)
平成16年			1	1			2
平成17年							0
平成18年			1	2	1		4
平成19年		1			4	1	6
平成20年				2		1	3
平成21年							0
平成22年	2			2	2	3	9
平成23年					4		4
平成24年				1	1		2
平成25年				5	2		7
計(人)	2	1	2	13	14	5	37



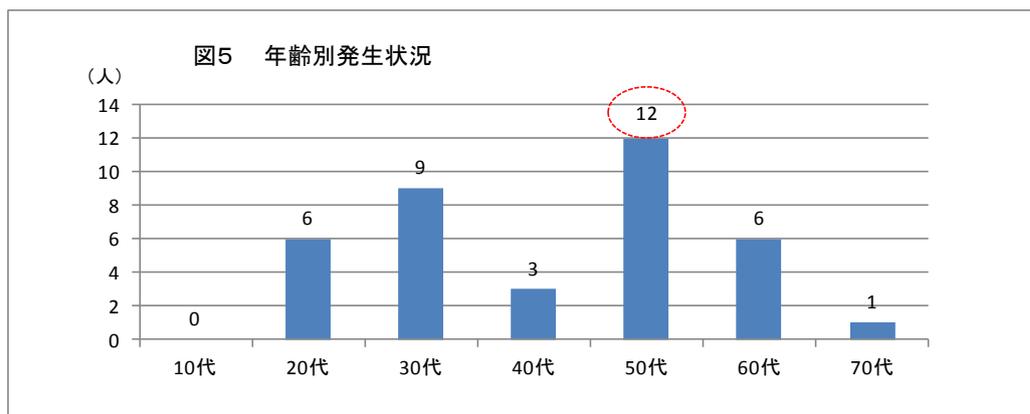
(2) 時間帯別発生状況

時間帯	9時台以前	10時台	11時台	12時台	13時台	14時台	15時台	16時台	17時台	18時以降	計(人)
平成16年							1		1		2
平成17年											0
平成18年	1				1	1				1	4
平成19年	1					1	1	1	2		6
平成20年						1	2				3
平成21年											0
平成22年	1	4	1				3				9
平成23年						1	2			1	4
平成24年						1		1			2
平成25年				1	1	2	2	2			7
計(人)	3	4	1	1	1	7	11	4	3	2	37



4 年齢別発生状況

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計(人)
平成16年			1		1			2
平成17年								0
平成18年				1	2	1		4
平成19年		3	1		2			6
平成20年		2	1					3
平成21年								0
平成22年		1	2	1	3	2		9
平成23年			1		1	2		4
平成24年			1		1			2
平成25年			2	1	2	1	1	7
計(人)	0	6	9	3	12	6	1	37



5 休業日数別

年代	4～7日	8～14日	15～21日	22日～1ヵ月	2～3ヵ月	3ヵ月以上	死亡	計(人)
平成16年		1		1				2
平成17年								0
平成18年	2	1					1	4
平成19年	3	2			1			6
平成20年	1	1		1				3
平成21年								0
平成22年	4	2		1	1	1		9
平成23年	3	1						4
平成24年		1				1		2
平成25年	4	1		1			1	7
計(人)	17	10	0	4	2	2	2	37

